

9.3 飛騨天文台創立 40 周年記念事業

飛騨天文台は、2008 年 11 月で開設 40 周年を迎えました。1968 年の開設当時は 60cm 反射望遠鏡や 65cm 屈折望遠鏡 (1972 年) による惑星観測が主体でしたが、その後、60cm ドームレス太陽望遠鏡 DST (1979 年)、太陽フレア監視望遠鏡 FMT (1993 年)、太陽磁場活動望遠鏡 SMART (2003 年) と近年では太陽観測を主体に研究、教育活動を展開してきました。

これを記念して 2009 年 5 月 25 日に式典および祝賀会を上宝カントリークラブ&リゾートホテルにて開催しました。式典では柴田一成台長の挨拶に続いて、吉川研一理学研究科長、桜井隆国立天文台副台長、佐竹稔高山市議にご祝辞をいただき、野中定雄理学研究科事務部長をはじめとした、学内外からの 55 名の皆様にご参加いただきました。その後、国立天文台教授渡邊鉄哉様の乾杯のご発声で始まった祝賀会は、飛騨天文台建設当時を紹介するスライド上映などを交えて、和やかに執り行われました。防災研究所上宝地震観測所の大見士朗様、防災研究所穂高砂防観測所の堤大三様、物理学第二教室の谷森達様、宇宙物理学教室の太田耕司様に暖かいご祝辞をいただきました。

さらに、翌 5 月 26 日には、飛騨天文台の耐震工事を終え装いを新たにした研究棟において附属天文台の将来計画に関する小研究会を開催しました。研究会には、附属天文台と宇宙物理学教室の教員、院生、学内の研究者が参加して、現在、附属天文台と宇宙物理教室が推進している岡山 3.8m 望遠鏡計画や、太陽分野の将来計画についての活発な議論がなされました。ご参加いただいた皆様方にはここに厚く御礼申し上げます。



(永田 伸一 記)